

伊東玄朴コース

伊東玄朴は、我国近代西洋医学の道を拓いた先駆者の一人で、当時の医学界に非常に重要な役割を担った人物です。江戸時代、漢方が主流の中で、蘭方医として初めて将軍奥医師となり、医官最高の法印の地位につき、医学を漢方から蘭方へと変えた先駆者として活躍します。また、牛痘種法の有効性を佐賀藩主に建言し、我国で初めて公式に牛痘種法に成功し、江戸において公衆予防の先駆けとなるお玉ヶ池種痘所設立の中心的役割をになった重要な人物でした。このお玉ヶ池種痘所は、後の東京大学医学部へと発展しています。

伊東玄朴は、神埼の仁比山に、寛政12年(1800)に生まれ、幼名を執行勘造と言います。幼少のころ漢学を学んだ仁比山神社不動院跡や、16歳の時に医を志し入門した、隣村で漢方医を開業していた古川左庵の墓と伊東玄朴が23歳の時に建てた旧宅が残されています。また、仁比山の峰の原墓地には、祖父・父・母が眠る墓所があります。

起点 仁比山公園～ **終点** 仁比山公園
行程 約3.5 km

仁比山公園

↓公園より城原川に架かる愛逢橋へ

愛逢橋

↓橋を渡ると「もみじの湯」前に出ます。県道を横断して下さい。

仁王門より参道を登り約50mで伊東玄朴旧宅へ

①伊東玄朴旧宅

↓更に、参道を約200mほど登ると、現在の九年庵の場所にあった、仁比山護国寺の不動院跡

②仁比山護国寺不動院跡(現 国名勝 九年庵)

↓九年庵より参道を下り県道を北西へ約500mで峰の原墓地に至ります。

③執行家墓所

↓県道を南へ約1kmで、水車が復元されている水車の里に至り、東へ左折し光蔵寺へ

○光蔵寺・古川左庵の墓・古川病院跡へは、車で水車の里遊学館まで行き、徒歩で行くこともできます。

④光蔵寺

↓光蔵寺本堂の左脇より裏手の墓地へ

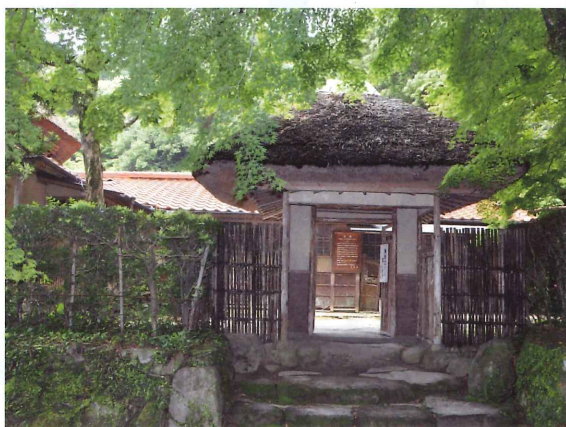
⑤漢方医 古川左庵の墓

↓光蔵寺より水車の里へ、復元された水車の北約20mに古川左庵の旧宅跡があります。

⑥旧古川病院跡(古川左庵子孫開業)

↓県道を北上し、もみじの湯へ。愛逢橋を渡り仁比山公園へ

仁比山公園



②玄朴が学問を学んだ仁比山護国寺跡

13歳の時、仁比山護国寺不動院の玄透和尚に学問を学び始めます。玄透和尚について学問を学んだ玄朴は、師である玄透和尚に論難を吹きかけ、破門されそうになったと伝えられています。3年間で学問の基礎を学び、医を志し、古川左庵へ入門しています。仁比山護国寺は、現在の国名勝 九年庵がある場所にありました。



①伊東玄朴旧宅

仁比山神社の参道沿いの高台にある伊東玄朴旧宅です。16歳で漢方医古川左庵に入門し、医者として修行をつんだ執行勘造こと伊東玄朴は、父重助の死去により自宅へ帰り医を開業します。玄朴19歳の時です。医者として評判が高く多くの患者が訪れていたといわれています。この旧宅は、玄朴23歳の時に建てたと伝えられ、八畳二間続きと三畳と六畳間があります。床の間が付く八畳間は、大正時代に軒が瓦葺きに改築され、濡れ縁が付けられています。台所となるかまやは、建物北側の井戸に隣接してその跡が残されています。

旧宅は、昭和48年に佐賀県史跡に指定され、保存公開を行っています。



旧宅東斜面に建つ生誕の地碑



③執行家墓所(峰の原墓地)

執行家は、櫛田宮の神職の家系と言われ、仁比山の山王社(現仁比山神社)の神職も務めたといわれています。玄朴の父重助は仁比山護国寺の不動院の被官を務めていました。執行家の墓所は、峰の原墓地にあり、仁比山護国寺の一つである地藏院墓所の西に隣接しています。右より、父重助の墓碑、母繁の墓碑、祖父幸兵衛の墓碑が建っています。



⑤古川左庵の墓



④古川左庵の墓がある光蔵寺



⑥旧古川病院跡

玄朴の師 漢方医 古川左庵

玄朴は、16歳の時隣村の小湊で漢方医を開業していた古川左庵に入門し、医を学び始めます。師となる古川左庵は、三養基郡豆津村出身の漢方医で、小湊村で開業していた古川家の養子となり家業を継いだ人物です。医者としての評判は高く、寺子屋を開設し地域の教育活動にも力を注ぎ住民より人望を集めていました。玄朴は、古川左庵宅に寄宿し、漢方医書により医者としての知識を学び、4年の修行ののち師より「桃林」の号を授けられ医者としての道を歩み始めることになります。19歳で自宅へ帰り仁比山に残る旧宅の地で医業を営みます。